

奈良学園大学大学院 看護学研究科看護学専攻 教育課程科目表 (2022年度)

2022.11.17

区分	科目名	科目責任者	単位数	配当年次	時間数		○…CNS 選択科目 ●…CNS 必修科目 ★…研究科必修科目 ☆…研究科選択科目			CNS 区分
基盤科目	国際医療特論	守本	2	1 前	15	30		★	必修	
	国際看護特論	守本	2	1 後	15	30		☆		
	ヘルスプロモーション特論	伊藤	2	1 後	15	30		☆		
	看護倫理特論	上野	2	1 前	15	30	○	★	必修	共A
	コンサルテーション論	上野	2	1・2 前	15	30	○	☆	CNS 2科目 4単位以上 選択	共A
	看護理論特論	守本	2	1 後	15	30	○	☆		共A
	看護教育学特論	西薊	2	1 後	15	30	○	☆		共A
	看護管理学特論	西薊	2	1 後	15	30	○	☆		共A
	CNS 必修	臨床薬理学	五味田	2	1・2 後	15	30	●	☆	共B
		病態生理学	平野	2	1・2 前	15	30	●	☆	共B
		フィジカルアセスメント	松浦	2	1・2 前	15	30	●	☆	共B
		看護研究特論	吉村	2	1 前	15	30	○	★	必修
専門科目	在宅看護学特論Ⅰ (在宅看護学)	守本	2	1 前	15	30		☆		
	在宅看護学特論Ⅱ (慢性期)	守本	2	1 前	15	30		☆		
	在宅看護学特論Ⅲ (回復支援)	辻下	2	1 後	15	30		☆		
	在宅看護学特論Ⅳ (地域包括支援)	守本	2	1 後	15	30		☆		
	在宅看護学特論演習	守本	2	2 前	15	30		☆		
育成看護学分野	育成看護学特論Ⅰ (発達支援)	服部	2	1 前	15	30		☆		
	育成看護学特論Ⅱ (次世代育成支援)	服部	2	1 前	15	30		☆		
	育成看護学特論Ⅲ (リプロダクティブヘルス・ケア)	服部	2	1 後	15	30		☆		
	育成看護学特論Ⅳ (家族支援)	服部	2	1 後	15	30		☆		
	育成看護学特論演習	服部	2	2 前	15	30		☆		
精神看護学分野	精神看護学特論Ⅰ (歴史・法制度)	上野	2	1 前	15	30	●	☆	CNS 必修	CNS 精神看護専攻教育課程
	精神看護学特論Ⅱ (精神・身体状態の評価)	上野	2	1 前	15	30	●	☆	CNS 必修	
	精神看護学特論Ⅲ (精神科治療技法)	上野	2	1 前	15	30	●	☆	CNS 必修	
	精神看護学特論Ⅳ (精神看護理論、援助技法)	上野	2	1 後	15	30	●	☆	CNS 必修	
	地域移行支援精神看護学特論	上野	2	1 後	15	30	○	☆	CNS1 科目 2 単位選択	
	急性期精神看護学特論	上野	2	1 後	15	30	○	☆		
	精神看護学演習Ⅰ (精神科治療技法)	上野	2	1 前	15	30	●	☆	CNS 必修	
	精神看護学演習Ⅱ (精神看護理論、援助技法)	上野	2	1 後	15	30	●	☆	CNS 必修	
	精神看護学実習 アセスメント	上野	2	1 前	45	90	●	☆	CNS 必修	
	精神看護専門看護師役割実習	上野	2	1 後	45	90	●	☆	CNS 必修	
科目研究	特別研究	上野	8	1-2 通	15	120		☆	修士選必	
	課題研究	上野	4	2 通	15	60		☆	CNS 選必	
計			—	—	—	—	38	44		

基盤科目から必修6単位を含み10単位以上、専門科目から3つの分野のうち1つの分野を主たる分野として演習2単位を含む8単位以上及び他の分野から4単位以上の計12単位以上、研究科目から特別研究8単位を加え、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、精神看護学分野の急性期精神看護学特論と地域移行支援精神看護学特論、実習科目は除く。

CNSを履修するコースにおいては、基盤科目16単位以上(国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント12単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から4単位以上)、専門分野24単位以上(特論4科目8単位、演習2科目4単位、実習4科目10単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論又は地域移行支援看護学特論からいずれか1科目2単位選択)、研究科目から課題研究4単位を加え、合計44単位以上を修得し、課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

科目名	国際医療特論				
担当教員	守本とも子、堀内美由紀				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義 (一部演習)
単位区分	必修	単位数	2単位		
授業の概要	諸外国と日本の医療制度を比較する中でケアの受け手にとって必要なケア・サービス・制度についてディスカッションを行う。				
授業の目標	1. 保健医療における法や制度の意義について考えることができる。 2. 諸外国と日本の医療制度を比較ができる。 3. 医療制度と地域の歴史・文化、政治・経済的背景の関係を考えることができる。				
育成する能力	医療制度を多角的に捉えることができ、グローバルな視点で保健政策への提言を可能にする力を修得する。				
授業計画	1	ガイダンス グローバリゼーションと医療	(堀内)		
	2	医療制度とは - 日・米・英の比較から	(堀内)		
	3	タイ王国・デンマーク・イギリスにおける保健医療と福祉	(守本)		
	4	タイ王国・デンマーク・イギリスにおける医療制度をケア・サービスの受け手の視点で考える	(守本)		
	5	関心を持った国の医療制度と地域の歴史・文化、政治・経済的背景を調べる	(堀内)		
	6	5の発表・意見交換	(堀内)		
	7	ゲストスピーカー：国際機関の役割 (WHOとWHO Kobe) , 最近の研究トピックス, 研究と保健政策の関係を考える (仮題) (堀内・ゲストスピーカー WHO健康開発センター 茅野龍馬先生)			
	8	7のまとめ/ディスカッション	(堀内)		
	9	ゲストスピーカー：国内外の補完医療・代替医療 - スリランカにおける認知症の受け止め方と文化的背景 - エスノグラフィ研究実践に触れる (仮題) (堀内・ゲストスピーカー 東都立大学 野村亜由美先生)			
	10	9のまとめ/ディスカッション	(堀内・ゲストスピーカー 東都立大学 野村亜由美先生)		
	11	海外におけるコメディカル - 理学療法学の現在	(堀内・飯塚)		
	12	理学療法学における国際的な研究・トピックス	(堀内・飯塚)		
	13	国際協力機関の役割	(守本)		
	14	日本の国際協力の実際 - 保健医療協力を事例として -	(堀内)		
	15	まとめ	(堀内)		
テキスト ・参考書	適宜紹介する				
予習・復習についての情報	予定している授業テーマについては、文献を積極的に探してクラスで共有しましょう。				
授業の形式	オンライン授業 (ZOOMを用いたライブ授業やオンデマンド, Classroomなど学習管理システムを用いた授業) と対面授業を組み合わせる。				
評価の方法 (評価の配点比率と評価の要点)	課題レポート (60%)、各テーマへの取り組み (40%)				
その他					

科目名	国際看護特論				
担当教員	守本とも子、堀内美由紀				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義 (一部演習)
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	国際医療特論の学習を踏まえ、国内外の看護の現状と健康課題を理解し、国際的に看護活動を展開するために必要な知識と技術を学ぶ。文化的背景や医療制度および福祉制度等から生じた健康問題について、国内外の文献検討を通して関心のある健康問題を選択し、解決手法を探索する方法を学ぶ。				
授業の目標	1. グローバルな健康課題に対して、看護の視点から解決策を検討できる。 2. 異なる文化的背景を持つ対象の看護実践の例を具体的に説明できる。				
育成する能力	国内外の看護の現状や健康課題について理解し、国際的に看護活動が展開できる能力と、国際的な視点を持って看護問題の解決方法を検討する能力を育成する。				
授業計画	1	オリエンテーション グローバル化の看護に及ぼす影響			(堀内)
	2	看護におけるダイバシティ&インクルージョン理解の有効活用			(堀内)
	3	SDG s から読み取る世界の健康課題を読み解く			(堀内)
	4	世界の健康課題における看護職の役割に関するディスカッション			(堀内)
	5	在日外国人の健康問題			(堀内)
	6	EPA制度 外国人看護師との協働をどのように推進できるか			(堀内)
	7	オーストラリアの終末期ケアの実例			(堀内・ゲストスピーカー (JuliePaul))
	8	7のまとめ			(堀内)
	9	災害が健康や生活に与える影響について理解を深める			(堀内)
	10	災害看護に関する世界の動き			(堀内)
	11	国際看護における研究・国際誌への投稿			(堀内)
	12	異文化看護の理解① 文献検討を通して関心のある健康課題に関する解決手法を探索する			(守本)
	13	異文化看護の理解② 文献検討を通して関心のある健康課題に関する解決手法を探索する			(守本)
	14	異文化看護の理解③ 文献検討を通して関心のある健康課題に関する解決手法を探索する			(守本)
	15	異文化看護の理解④ プレゼンテーション・まとめ			(堀内・守本)
テキスト ・参考書	適宜指示します				
予習・復習 についての情報	海外の保健・医療・福祉・看護に関する文献を積極的に調べてください。				
授業の形式	オンライン授業 (ZOOMを用いたライブ授業やオンデマンド, Classroomなど学習管理システムを用いた授業) と対面授業を組み合わせる。				
評価の方法 (評価の配点比率と評価の要点)	最終課題レポート50%, 授業への取り組み 30%, 最終プレゼンテーション20%				
その他					

科目名	ヘルスプロモーション特論				
担当教員	伊藤健一、野中紘士				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	水曜 6-7限	講義室	—	授業形態	講義（一部演習） （遠隔ZOOM）
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	ヘルスプロモーションの定義、歴史、展開について解説した上で、生活習慣病やメタボリックシンドロームを予防し、健康的な生活を構築するための要素（運動、栄養、休養と健康を阻害する要因）について学習する。レジスタンストレーニング、エンデュランストレーニング等の効果に関する理論と実践方法を対象者の特徴を踏まえて学習し、年齢・性別・健康状態や体力レベルに応じた健康づくりの方法や運動処方作成について具体的に理解する。また、それらを地域社会においてどのように指導するか、施設や用具の利用方法も含めて学習する。				
授業の目標	1.ヘルスプロモーションの定義、歴史、展開について理解する。 2.現代社会と健康問題、健康とライフスタイルについて理解する。 3.身体活動と健康増進についての基礎理論を学習する。 4.看護師として対象者に応じた健康増進プログラムの作成や指導ができる。				
育成する能力	高度な看護を提供する上で必要となるヘルスプロモーションの基盤である体力と運動生理学理論そして行動変容理論を応用できる能力を育成する。				
授業計画	1	講義ガイダンス	(伊藤)		
	2	ヘルスプロモーション	(伊藤)		
	3	ヘルスプロモーション 演習	(伊藤)		
	4	呼吸器機能と運動	(伊藤)		
	5	循環器機能と運動	(伊藤)		
	6	代謝機能と運動	(伊藤)		
	7	運動習慣形成のための行動変容	(伊藤)		
	8	地域づくり型保健活動とヘルスプロモーション	(伊藤)		
	9	高齢者のヘルスプロモーション	(野中)		
	10	子どもヘルスプロモーション	(野中)		
	11	フレイルとサルコペニア	(野中)		
	12	ロコモティブシンドローム	(野中)		
	13	体力測定と評価	(野中)		
	14	トレーニングとトレーニング実施上の留意点	(野中)		
	15	運動とマイオカイン	(野中)		
テキスト ・参考書	特になし				
予習・復習についての情報	指定されたテキストを熟読するとともに、毎回の講義内容に関連した参考書で基本的な用語を理解すること。				
授業の形式	テキスト、配付資料、視聴覚資料を用いた遠隔講義（ZOOM）、対面での演習				
評価の方法（ 評価の配点比率と評価の要点）	レポート課題（100%）				
その他	トラブル等でZOOMの使用が困難な場合はメールで連絡のこと。 伊藤： itok@naragakuen-u.jp 野中： nonaka@naragakuen-u.jp				

2021.9.8更新

科目名	看護倫理特論				
担当教員	上野栄一、服部律子、西菌貞子、吉村雅世、守本とも子、中川晶、村岡潔、新谷奈苗				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義 (一部演習)
単位区分	必修	単位数	2単位		
授業の概要	看護倫理を理解するうえで基盤となる生命倫理をベースに看護倫理の歴史的経緯を概観する。その上で看護職が判断し行動していくときに重要となる概念や倫理の原則、倫理に関する理論の理解を深め、臨床現場で看護職が直面する倫理的問題に、気付く能力、考察する能力、調整する能力、解決する能力を養う。また、看護実践の経験をもとに、看護倫理の持つ意味を深く探究し、様々な倫理面での意思決定の方法論について探究し、倫理調整を行うために必要な知識と技術を修得する。				
授業の目標	1. 看護における生命倫理の歴史的変遷を理解する。 2. 看護実践における倫理的課題を理解する。 3. 討論を通して倫理的問題に対する倫理調整のプロセスを理解する。 4. 高度実践看護師として倫理的感受性を豊かにし、看護現場における倫理的な問題・葛藤について関係者間で調整することを学ぶ。				
育成する能力	常に看護倫理の持つ意味を探究し、看護職が直面する倫理問題に気づく力、考察する力、マネジメントする力を修得し、様々な倫理問題を解決する能力を育成する。				
授業計画	1	生命倫理・医療倫理の定義と歴史的経緯 看護倫理の意義 (中川)			
	2	看護倫理 看護場面での倫理的課題に気付く能力、考察する能力、調整する能力、解決する能力 (守本)			
	3	トラウマインフォームドケアの概念 トラウマの定義、トラウマインフォームドケアの定義 (西菌)			
	4	トラウマインフォームドケアと非トラウマインフォームドケア 自分が所属する機関・部署、そして自分自身の中にあるトラウマインフォームドケアと非トラウマインフォームドケアについて討議する。倫理的感受性を豊かにし、臨床現場における倫理的な問題・葛藤について関係者間で調整することを学ぶ。 (西菌)			
	5	ターミナルケアと看護倫理 ターミナルケアでの家族を含めた医療者とコンセンサスを得ていくプロセスの調整 (上野)			
	6	生殖医療・胎児の人権 最新の生殖医療の現状を理解し、生殖医療の場における課題に気づき、誰にとっての人権なのかを医師、本人、家族、法曹関係者との間で問題を明確にする調整能力 (服部)			
	7	告知とインフォームドコンセント 治療の選択権を生命保持と生活の質の葛藤から患者、家族の要望を十分に配慮して医療者との間で患者、家族が決定していくプロセスを調整する能力 (西菌)			
	8	高齢者虐待、認知症高齢者の権利と自己決定権 認知症を含む高齢者の人権が脅かされる状況の早期発見と解決策を調整する能力 (吉村)			
	9	高齢者・障害者と人権 在宅における医療者の人権擁護とケアを受ける人とその家族の人権侵害に気づき、解決策を調整する能力 (守本)			
	10	事例検討Ⅰ 医療現場における倫理的ジレンマの現状と解決方法についての討論 倫理的問題・葛藤を関係者間で調整する。 倫理的感受性を養う。 (村岡)			
	11				
	12	事例検討Ⅰ 発表 (村岡)			
	13	事例検討Ⅱ 医療現場における倫理的ジレンマの現状と解決方法についての討論 倫理的問題・葛藤を関係者間で調整する。 倫理的感受性を養う。 (新谷)			
	14				
	15	事例検討Ⅱ 発表 (新谷)			
テキスト ・参考書	村岡他編著『医療・看護に携わる人のための人権・倫理読本』（法律文化社）10～12回目で使用 看護倫理 小西恵美子著 2015.1 南江堂 看護倫理の事例検討 杉谷藤子、川合政恵 監修 医療人権を考える会執筆 2011.11 看護協会出版				
予習・復習についての情報	(事前学習) 新聞・TVなどで報道される倫理的問題についてレポートを作成する。 (事後学習) 授業・演習を通して、自身の倫理観がどのように変容したかをまとめる。				
授業の形式	講義 (一部演習)				
評価の方法 (評価の配点比率と評価の要点)	レポート (80%)、プレゼンテーション (20%)				
その他					

科目名	コンサルテーション論				
担当教員	上野栄一				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1・2年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義 (一部演習)
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	看護職を含むケア提供者に対して必要なコンサルテーションの知識と技術を教授する。コンサルテーションの意義、目的、概念を教授し、コンサルティのコードを理解し、求めているコンサルテーションを提供するのに必要なコンサルテーションのモデル、役割と技術を教授する。				
授業の目標	<p>コンサルテーションの意義、目的、概念を理解しコンサルテーションに必要な技術を実施したコンサルテーションのスーパーバイズを受けて深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンサルテーションの意義、目的、概念を理解する。 2. コンサルテーションの技術を理解する。 3. カプランのコンサルテーションの4つのモデルを理解する。 4. リピットとリピットのコンサルテーションの8つの役割を理解する。 5. 実施したコンサルテーションのスーパービジョンを受けて、自分の強みと課題を理解する。 				
育成する能力	マネジメント力に不可欠なコンサルテーションの知識と技術の修得				
授業計画	1	コンサルテーションの意義、目的、概念 コンサルテーション・リエゾン・教育・スーパービジョン・直接ケアの相違			
	2	コンサルテーションの技法 問題の特定とアセスメントに必要な技術 相談内容を特定する技術 問題解決に必要な複数の選択肢を提案する技術 解決策を実行に移せるように支援する技術			
	3	コンサルテーションのモデルの理解 カプラン4つのモデル(患者中心のコンサルテーション) 体験事例の報告			
	4	コンサルテーションのモデルの理解 カプランのコンサルテーションの4つのモデル(コンサルティ中心の事例のコンサルテーション) 体験事例の報告			
	5	コンサルテーションのモデルの理解 カプランのコンサルテーションの4つのモデル(管理中心のコンサルテーション) 体験事例の報告			
	6	コンサルテーションのモデルの理解 カプランのコンサルテーションの4つのモデル(コンサルティ中心の管理のコンサルテーション) 体験事例の報告			
	7	リピットとリピットのコンサルテーションの8つの役割 Advocator, Information Specialist, trainer/Educator, Joint Problem Solverの役割 実践した事例を学習した8つの役割のうち4つに該当するか討議する。			
	8	リピットとリピットのコンサルテーションの8つの役割 Identifier of alternatives and Linker of Resources, Fact Finder, Process Counselor, Objective Observerの役割 実践した事例を学習した8つの役割のうち4つに該当するか討議する。			
	9	コンサルテーションの実際 学生がコンサルテーションを自分のフィールドで実施する。			
	10	学生が実施したコンサルテーションのプレゼンテーションをし、学生間で討議をし、教師がスーパービジョンを行う。カプランの4つのモデルとリピットとリピットの8つの役割で検討する。			
	11	学生が実施したコンサルテーションのプレゼンテーションをし、学生間で討議をし、教師がスーパービジョンを行う。カプランの4つのモデルとリピットとリピットの8つの役割で検討する。			
	12	プレゼンテーション・スーパービジョン 提示したプレゼンテーションのロールプレイングを行い、理論と実践を結び付ける。			
	13	プレゼンテーション・スーパービジョン 提示したプレゼンテーションのロールプレイングを行い、理論と実践を結び付ける。			
	14	医師、薬剤師、社会福祉士、心理士、作業療法士、栄養士など他職種専門家へのコンサルテーション 精神看護専門看護師が他職種専門家に実施するコンサルテーションについて、その限界と有効性を体験事例を基に討議する。			
	15	入院の場と地域の場でのコンサルテーション 入院の場で行うコンサルテーションと地域の場で行うコンサルテーションの相違、注意点に関して文献と実践体験を基に討議し、拡大する精神看護専門看護師のコンサルテーションを学ぶ。			
テキスト ・参考書	川野雅資:改訂版コンサルテーションを学ぶ、クオリティケア、2017 アンダーウッド P. (1995):コンサルテーションの概要—コンサルタントの立場から、インターナショナルナーシングレビュー、18(5)、4-12				

科目名	看護研究特論				
担当教員	吉村雅世、服部律子、西菌貞子、松浦純平、辻下守弘、中川晶、丸尾智実				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	必修	単位数	2単位		
授業の概要	看護学の専門的な知識や技術の向上とその開発を図るための研究活動を行う上で必要となる基礎的能力を育成するため、看護研究の過程や課題へのアプローチ方法など研究の方法を全般的に学ぶ。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の過程を理解できる。 2. 文献のクリティークについて理解できる。 3. 研究課題の設定のプロセスを理解できる。 4. 各種の研究手法を理解できる。 5. 自分が実践してきた看護研究の課題を明確にする。 6. 修士論文又は課題研究のための研究手法を明確にする。 				
育成する能力	特別研究、課題研究、及びマネジメント力に必要な看護研究の方法を習得する。				
授業計画	1	看護研究とは 看護研究とはなにかについて、研究課題、研究デザイン、研究のプロセスを中心に教授する。 (服部)			
	2	看護研究と倫理 研究における倫理の考え方と倫理的配慮の実際について教授する。 倫理審査申請書の記述について、モデルを基に学習する。 (服部)			
	3	文献クリティーク1 研究活動に活かす文献クリティークの基礎について学び、自分の関心領域の文献を用いてクリティークを行う。 自分のクリティークと他者のクリティークの相違を討議し、自分が見落としている点について客観的に理解を深める。 (西菌)			
	4	文献クリティーク2 高度看護実践や看護研究におけるシステムティックレビューの必要性やその方法など、システムティックレビューの基本を教授する。 (西菌)			
	5	研究の手法1 (量的研究手法) 量的研究手法を用いる研究デザインや量的手法の限界について教授する。 これまで実施した量的研究を用いて、その限界や課題、良い点を検討する。 (西菌)			
	6	研究の手法2 (量的研究手法) 量的分析のためのデータ収集方法や変数の測定方法について教授する。 (西菌)			
	7	研究の手法3 (量的研究手法) 統計学的分析の方法について教授する。 (西菌)			
	8	研究の手法4 (質的研究手法) 質的研究手法を用いる研究デザインとそれぞれのデザインの特徴など、質的研究手法の基礎を教授する。 実施した質的研究を用いて、不足している点や課題を検討する。 (吉村)			
	9	研究の手法5 (質的研究手法) 質的記述的内容分析、グラウンデッド・セオリー、エスノグラフィーの方法について教授する。 (吉村)			
	10	研究の手法6 (質的研究手法) 現象学、歴史的研究法の方法について教授する。 (吉村)			
	11	研究の手法7 (会話分析) 会話分析の方法について実践事例を基に分析の方法を討議する。 (吉村)			
	12	研究の手法8 (ナラティブ) 研究活動における臨床ナラティブアプローチの有効性や、実例を紹介しながら、実践の場における研究活動への活用について討議する。 (中川)			
	13	研究の手法9 (ナラティブ) 臨床ナラティブアプローチの方法を教授する。 (中川)			
	14	研究の手法10 (混合研究手法) テキストマイニングを用いた研究を紹介しながら、テキストマイニングの方法について教授する。 (松浦)			
	15	研究の手法11 (実験的手法) 実践の場での研究活動における実験的手法の活用例を示しながら、実験的手法の計画や進め方について教授する。 これまでの学習から、修士論文又は課題研究のために必要な研究的視点と研究方法を討議する。 (丸尾)			

テキスト・参考書	<p>牧野清子、『エビデンスに基づく看護実践のためのシステマティックレビュー』、日本看護協会出版会 Suzan K. Grove, Nancy Burns, Jennifer R. Gray、黒田 裕子他訳、『バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 ー評価・統合・エビデンスの生成』、エルゼビア・ジャパン 川野雅資編著(2015):看護研究、PILAR Press 川野雅資編著(2002):看護研究入門、星和書店 その他、適宜紹介する。</p>
予習・復習についての情報	<p>(事前学習) ①これまで実践した看護研究についてまとめ、研究としての一貫性について検討しておく。 ②参加した学会等で、印象的な研究についてまとめておく。③学術研究論文を2本読んでおく。 (事後学習) ①自分が取り組みたい研究課題を明確にする。特に、研究方法について継続的に学習する。 ②機会を得て、日本看護科学学会や日本看護研究学会、その他各専門領域の学会に参加する。</p>
授業の形式	講義、ディスカッション、実施した研究の提示
評価の方法 (評価の配点比率と評価の要点)	<p>課題レポート (100%) 自分が行いたい研究課題を明確にし(20%)、考えられる研究方法を提示し(40%)、想定する倫理的課題を検討し(20%)、研究方法の課題と利点を、文献を基に論述する(20%)</p>
その他	

科目名	在宅看護学特論 I (在宅看護学)				
担当教員	守本とも子、吉村雅世、西菌貞子、芝田ゆかり、松浦純平、吉川義之				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	在宅で生活している様々なライフステージにおける人々の QOL の向上を目指し、健康の維持・増進と疾病治療に関する援助について現状の課題を考える。在宅療養で看護が担う医療の中で、高度なマネジメントを伴う医療・処置について国際的、他職種との連携、リーダーシップをキーワードに、小児・成人・老年と様々なライフステージにある人々の現状を分析し課題について考える。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養における治療・処置の現状からさまざまなライフステージにある人々への看護の役割についての課題を考察できる 2. 在宅療養における治療・処置の現状と関わる多様な職種から看護の役割について今後の課題を考察できる。 3. 在宅療養における治療・処置の現状と国際比較から看護の今後の課題を考察することができる。 4. 在宅医療において高度な医療技術を必要とする医療の中でのリーダーシップについて考察できる。 				
育成する能力	在宅におけるさまざまなライフステージにある人の健康課題と高度な在宅医療のなかでのチーム医療における看護職の役割を考察する能力を育成する。				
授業計画	1	在宅療養の成立の条件と看護活動 在宅看護とは 在宅療養と家族の支援 在宅療養を必要とする人たち ライフステージと健康 在宅看護で行われる医療・処置			(守本)
	2				
	3	在宅における酸素療法、吸入といった呼吸器の医療について、国際性、他職種、リーダーシップをキーワードにテーマを決め、文献等から現状について考える。			(吉村)
	4				
	5	在宅におけるインシュリン療法といった糖尿病に関する医療について、国際性、他職種、リーダーシップをキーワードにテーマを決め、文献等から現状について考える。			(西菌)
	6				
	7	在宅における排泄支援、転倒・転落予防、褥瘡処置、経管栄養について、国際性、他職種、リーダーシップをキーワードにテーマを決め、文献等から現状について考える。			(吉村)
	8				
	9	在宅におけるがん性疼痛に対する医療について、国際性、他職種、リーダーシップをキーワードにテーマを決め、文献等から看護の課題を考える。			(松浦)
	10				
	11	支援が困難な在宅療養患者への専門的看護実践：神経筋難病・家族			(芝田)
	12	支援が困難な在宅療養患者への専門的看護実践：ALS患者・家族			(芝田)
	13	1. 在宅における高齢者の脆弱な皮膚・創傷の管理とその課題 1) 皮膚裂傷 (skin tear) 2) 浮腫 3) 褥瘡			(吉川)
	14	2. 在宅における排泄管理とその課題 1) 失禁ケア 2) 失禁関連皮膚炎 (Incontinence Associated Dermatitis)			
	15	3) ストーマ保有者へのケア ・在院日数短縮に伴う在宅ケアに求められるもの ・局所管理の評価 3. 皮膚・排泄ケア領域における専門性の高い看護師 (特定行為を含む) との連携			
テキスト・参考書	在宅看護—暮らしをみつめる看護の視点— 水戸美津子 編集 2014.2 中央法規出版 放送大学教材 在宅看護論 福島道子、川野あゆみ編著 2017.3 放送大学教育振興会				
予習・復習についての情報	在宅医療で実施されている高度医療・処置について学ぶ。 担当するテーマ以外も、文献検索等で予備知識を持ってディスカッションに臨むこと。				
授業の形式	講義				
評価の方法 (評価の配点比率と評価の要点)	レポート (100%)				
その他					

科目名	在宅看護学特論Ⅱ（慢性期）				
担当教員	守本とも子、吉村雅世、辻下守弘、堀内美由紀、松浦純平				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	成人期・老年期の主要な疾患の慢性期における高度な全人的看護が実施できる能力を育成する。また、在宅における慢性期看護の今日的課題を考える。 成人期・老年期に起こりうる主要な疾患を取り上げ、在宅における医療・処置を受ける事例のプレゼンテーションから全人的看護の実践についてディスカッションし、在宅看護における高度医療に対応する方法、課題を考える。				
授業の目標	1. 在宅で医療を生涯継続する患者・家族を理解するための基盤となる理論と概念について学び、実践と研究への適用を探究する。 2. 各ライフステージにおいて在宅における高度医療および処置を受けている患者の問題点を見出し、全人的看護について探究する。 3. 在宅における慢性疾患をもつ患者および家族の今日的課題を探究し、看護を開発する基盤を修得する。				
育成する能力	在宅における主要な疾患の慢性期における高度な全人的看護ができる能力を育成する。また、慢性期疾患を持つ患者及び家族の健康課題を分析し、看護を開発する能力を育成する。				
授業計画	1	在宅看護（慢性期疾患）における基本理念 アドボカシー、エンパワーメント、パートナーシップ、ヘルスプロモーション、 自己効力感、セルフマネジメントなどの基本概念を学ぶ。			（守本）
	2				
	3	在宅看護と家族 家族の介護負担と軽減について、現状と課題、課題解決の方向性について考える。			（堀内）
	4	COPD（慢性閉塞性呼吸器疾患）を主とする呼吸器疾患を患う患者・家族の看護について、現状と課題、課題解決の方向性について考える。			
	5				
	6	脳卒中後遺症、認知症などの神経障害患者・家族の看護について、現状と課題、課題解決の方向性について考える。			
	7				
	8	脳血管疾患により麻痺のある患者・家族の看護について、現状と課題、課題解決の方向性について考える。			
	9				
	10	筋骨格系障害により、活動に支障をきたす患者・家族の看護について、現状と課題、課題解決の方向性について考える。（骨粗しょう症、大腿部頸部骨折、腰椎骨折、上腕骨折など）			
	11				
	12	がん対策基本法と在宅におけるがん看護について、現状と課題、課題解決の方向性について考える。			
	13				
	14	糖尿病（合併症を含む）を患う患者・家族の看護について、現状と課題、課題解決の方向性について考える。			
	15				
テキスト・参考書	在宅医療実践ガイド 2013.4 Medical Practice編集委員会 慢性期看護「第3版」鈴木志津枝、藤田佐和編集 2014.3 ヌーヴェルヒロカワ				
予習・復習についての情報	在宅医療で、よく見られる疾患と看護について学びを深める。 担当するテーマ以外も、文献検索等で予備知識を持ってディスカッションに臨むこと。				
授業の形式	講義				
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	レポート（100%）				
その他					

科目名	在宅看護学特論Ⅲ（回復支援）				
担当教員	辻下守弘、吉川義之				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	地域での在宅生活を回復支援する上での基盤となる地域リハビリテーションの理念を理解し、ケアに関わる者が果たすべき役割について理解を深めながら、在宅生活における回復支援のためのリーダーとして活躍できるような実践的能力の基礎を醸成する。具体的には、地域生活支援に必須である日常生活動作の獲得を目指した行動分析的アプローチを習得するとともに、地域において介護予防を實踐できるマネジメント能力、そしてセラピストなど多職種との連携や協働による地域生活者に対する個別支援能力を涵養する。				
授業の目標	1. 地域での在宅生活を回復支援するための地域リハビリテーションの理念を理解する。 2. 在宅での回復支援を推進のため実践能力を習得する。 3. 日常生活動作の獲得に必要な行動分析的アプローチを實踐できる。				
育成する能力	介護予防など在宅生活を向上させるための回復支援場面における多職種との連携に関するマネジメント力を修得する。				
授業計画	1	講義ガイダンス、在宅における回復支援の概要			(辻下)
	2	行動分析学の基礎理論			(辻下)
	3	日常生活動作指導における応用行動分析学1（ベッド上基本動作）			(辻下)
	4	日常生活動作指導における応用行動分析学2（座位・立位動作）			(辻下)
	5	日常生活動作指導における応用行動分析学2（歩行・移動動作）			(辻下)
	6	在宅場面での介護者に対する日常生活指導			(辻下)
	7	地域における在宅生活の回復支援の実践事例			(辻下)
	8	在宅における歩行獲得の回復支援①			(吉川)
	9	在宅における歩行獲得の回復支援②			(吉川)
	10	在宅における車椅子生活者の回復支援①			(吉川)
	11	在宅における車椅子生活者の回復支援②			(吉川)
	12	在宅における車椅子生活者の回復支援③			(吉川)
	13	在宅におけるベッド上生活者の回復支援①			(吉川)
	14	在宅におけるベッド上生活者の回復支援②			(吉川)
	15	在宅におけるベッド上生活者の回復支援③			(吉川)
テキスト ・参考書	辻下守弘・小林和彦『リハビリテーションのための行動分析学入門』医歯薬出版 太田仁史『地域リハビリテーション原論』医歯薬出版				
予習・復習についての情報	指定されたテキストを熟読するとともに、毎回の講義内容に関連した参考書で基本的な用語を理解すること。				
授業の形式	テキスト、配付資料、視聴覚資料を用いた講義				
評価の方法（ 評価の配点比率と評価の要点）	レポート課題（100%）				
その他					

科目名	在宅看護学特論Ⅳ（地域包括支援）				
担当教員	守本とも子、佐藤郁代、井上葉子、三浦康代、周藤俊治				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義 （一部演習）
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	急速に進行する地域の高齢化を理解し、地域包括支援システムを推進する中での看護職が果たす役割・課題・問題点について理解するとともに、地域の特性を生かした地域包括支援について概説する。また、専門分野における研究を理解し、自らの研究に役立てる力を習得する。				
授業の目標	1. 医療連携・地域包括支援システムの構築の中での看護職の役割について考察できる。 2. 健康・不健康を問わず、さまざまな健康レベルにある人が、地域で生活するための健康支援・健康増進について考察できる。 3. 地域の特性を把握するための保健・医療統計を理解する。 4. 専門分野における研究を考察し、自らの研究計画に役立てることができる。				
育成する能力	地域包括支援システムを推進するために看護職が果たす役割・課題について理解することで、地域包括支援システムを推進できる教育力を修得する。				
授業計画	1	さまざまな健康レベルにある人の健康支援・健康増進			(守本)
	2	医療連携と地域包括支援システム			(守本・井上)
	3	謔妄、認知症、脳卒中後遺症患者の在宅看護に関連する制度と社会資源			(守本・佐藤)
	4	謔妄、認知症、脳卒中後遺症患者のケースマネジメントとチーム医療			(守本・佐藤)
	5	謔妄、認知症、脳卒中後遺症患者の地域包括ケア連携			(守本・井上)
	6	保健・医療統計①			(周藤)
	7	保健・医療統計②			(周藤)
	8	地域包括支援システムの構築の実際 認知症			(三浦)
	9	論文クリティーク①			
	10	地域包括支援システムにおける構成要素に関する文献クリティークから、研究の現状と課題・方向性を考える。（住まいと住まい方、生活支援、複合サービス、介護・医療・福祉、本人・家族の選択と心構え等）			(守本)
	11				
	12	論文クリティーク②			
	13	地域包括システムにおける自立支援に関する文献クリティークから、研究の現状と課題・方向性を考える。（自助、互助、共助、公助等）			(守本)
	14				
	15	まとめ			(守本)
テキスト ・参考書	国民衛生の動向（最新版）厚生労働省統計協会 よくわかる看護研究論文のクリティーク 山川みやえ、牧本清子編著 2014.6 日本看護協会出版会				
予習・復習についての情報	医療連携・地域包括支援システムにおける現状について理解しておくこと				
授業の形式	講義、グループワーク				
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	レポート（70%） プレゼンテーション（30%）				
その他					

科目名	在宅看護学特論演習				
担当教員	守本とも子、吉村雅世、松浦純平				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	2年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	演習 (一部講義)
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	慢性疾患・障害の予防に向けて、望ましい生活習慣の形成と慢性疾患・障害を持ち在宅で生活する人とその家族への支援について、文献レビューやディスカッションを行い、対象の多様なニーズに対応した援助方法や看護職の役割について追究する。国際的視点や他の専門職の視点にも注目して在宅療養を支える看護職の役割を考える。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 着目するテーマについて、国際的に、また他職種の視点から文献レビューができる。 2. 設定したテーマについて、さまざまなライフステージにある人々の多様なニーズに対応した援助方法を追究することができる。 3. 設定したテーマについて、さまざまなライフステージにある人々の多様なニーズに対応した看護師の役割を追究することができる。 4. ディスカッションの中でリーダーシップが取れる。 				
育成する能力	在宅における患者と家族の多様なニーズに対応できる援助方法や在宅医療を支える看護職の役割について探求できる能力を育成する。また、在宅看護のリーダーとしてリーダーシップが取れる能力を育成する。				
授業計画	1	テーマの決定 文献レビュー、プレゼン資料作成の打ち合わせ			(守本)
	2	COPD (慢性閉塞性肺疾患) を主とする呼吸器疾患患者と家族の看護における課題とその解決策についてのプレゼンテーションとディスカッション			
	3				
	4				
	5	筋骨格系障害により、活動に支障をきたす患者と家族の看護における課題とその解決策についてのプレゼンテーションとディスカッション			(吉村)
	6	糖尿病 (合併症を含む) 患者と家族の看護における課題とその解決方法についてのプレゼンテーションとディスカッション			
	7				
	8	脳血管疾患により麻痺のある患者と家族の看護における課題とその解決方法についてのプレゼンテーションとディスカッション			
	9				
	10	がん患者と家族の看護における課題とその解決方法についてのプレゼンテーションとディスカッション			
	11				
	12	脳卒中後遺症患者と家族の看護における課題とその解決方法についてのプレゼンテーションとディスカッション			
	13				
	14	認知症患者と家族の看護における課題とその解決方法についてのプレゼンテーションとディスカッション			
	15				
テキスト ・参考書	各自、最新の文献レビューを行い資料とする。				
予習・復習についての情報	興味のあるテーマ以外も、文献検索等で予備知識を持ってディスカッションに臨むこと。				
授業の形式	プレゼンテーションとディスカッション、あるいはグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション				
評価の方法 (評価の配点比率と評価の要点)	ディスカッションへの参加 (40%) テーマについての文献レビュー (30%) 看護の役割についての考察 (30%)				
その他					

科目名	育成看護学特論Ⅰ（発達支援）				
担当教員	服部律子、市村由美子				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義 （一部演習）
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	小児が精神的・身体的・社会的に健全な発達を遂げるために必要な施策や制度及び支援方法について学習し、各種身体機能障害や身体障がいを持っている小児の病態や、病態から来る日常生活の特徴について理解し、小児の望ましい成長発達や家族機能を支援するための方法について学ぶ。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期に特徴的な発達理論について述べるができる。 2. 小児や小児を取り巻く家族及び社会に関する制度や施策について述べるができる。 3. 小児期におこりやすい身体機能障害の種類やその特徴及び身体障がい児の特徴について述べるができる。 4. 身体機能障害や身体障がいを持つ児やその家族に対し、具体的な支援内容を述べるができる。 				
育成する能力	小児の健全な発達を遂げるために必要な施策や制度と支援方法を理解することで、小児の成長発達や家族機能の支援のための専門的知識に関する教育力を修得する。				
授業計画	1	小児の身体的、知的機能及び情緒・社会性の発達について学ぶ。			
	2	エリクソン、ピアジェ、ハビガースト等の発達理論について学ぶ。			
	3	エリクソン、ピアジェ、ハビガースト等の発達理論について学ぶ。			
	4	ブロンフェンブレナーの生態学的アプローチからみた小児の発達について学ぶ。			
	5	小児期の健康問題をとらえるための概念や理論について学ぶ。			
	6	小児期の健康問題をとらえるための概念や理論について学ぶ。			
	7	小児の発達区分ごとに見た健康問題について学ぶ（乳児期・幼児期）。			
	8	小児の発達区分ごとに見た健康問題について学ぶ（学童期・思春期）。			
	9	身体に障がいを持つ児の特徴と健康問題について学ぶ（身体障がいと知的障がいを併せ持つ小児）。			
	10	身体に障がいを持つ児の特徴と健康問題について学ぶ（身体障がいを持つ小児）。			
	11	健康問題を持つ児や身体に障がいのある児を支える制度や施策及び社会資源について学ぶ。			
	12	健康問題を持つ児や身体に障がいのある児の看護方法について理解し、具体的な支援方法について説明できる（乳児期）。			
	13	健康問題を持つ児や身体に障がいのある児の看護方法について理解し、具体的な支援方法について説明できる（幼児期）。			
	14	健康問題を持つ児や身体に障がいのある児の看護方法について理解し、具体的な支援方法について説明できる（学童・思春期）。			
	15	健康問題を持つ児や身体に障がいのある児の看護方法をとおして児や家族のQOLを高める支援方策について説明できる。			
テキスト ・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『ピアジェに学ぶ認知発達の科学』北大路書房 J. ピアジェ著/中垣啓訳 ・児童心理学三つの理論 エリクソン/ピアジェ/シアーズ 新装版 H. W. メイヤ（著）、大西 誠一郎（監訳） ・人間発達の生態学（エコロジー）—発達心理学への挑戦 ブロンフェンブレナー，ユリー【著】/磯貝 芳郎/福富 謙【訳】 				
予習・復習についての情報	検索語から文献検索を行い、各単元に関連する研究論文を複数編読みレジュメを作成しておくこと。				
授業の形式	講義及び学生によるプレゼンテーション				
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	授業に対する取組（20％）プレゼンテーション（30％：適切性、妥当性、資料の作成度合い、発表の内容と方法）、レポート（50％：論理性、一貫性、自身の考え等）				
その他					

科目名	育成看護学特論Ⅱ（次世代育成支援）				
担当教員	服部律子、三田村七福子				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	次世代育成のための看護実践力を高めることをねらい、思春期の親性育成から産後の子育て支援まで、妊娠前から産後までを連続線上で捉え、産後の母親のメンタルヘルスを踏まえた子育て支援を行うため、基本となる理論と看護の実践について学ぶ。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次世代育成支援の理念と施策を理解し説明できる。 2. 親準備性の概念や形成過程について理解し説明できる。 3. 妊娠・出産・子育て期の母親や家族の心理を理解し説明できる。 4. 産後の母親のメンタルヘルスについて理解し説明できる。 5. 家族が拡大する時期に焦点をあてて、子育て支援の在り方を考察できる。 				
育成する能力	理論や科学的根拠に基づいて次世代育成に向けた看護のあり方を探求し、次世代育成に貢献できる看護を実践できる力を育成する。				
授業計画	1	次世代育成支援とは1 次世代育成支援の考え方 次世代育成支援の法的整備と制度			(服部)
	2	次世代育成支援とは2 次世代育成支援の歴史の変遷			(服部)
	3	親準備性1 親準備性の概念			(服部)
	4	親準備性2 親準備性の形成			(服部)
	5	親準備性3 親準備性形成と看護介入			(服部)
	6	親役割1 母親役割とその獲得過程			(服部)
	7	親役割2 父親役割とその獲得過程			(服部)
	8	周産期の心理 妊娠・出産・子育て期の母親や家族の心理			(服部)
	9	母親のメンタルヘルス1 妊娠前の心理			(服部)
	10	母親のメンタルヘルス2 妊娠期の心理			(服部)
	11	母親のメンタルヘルス3 産後の心理			(服部)
	12	家族が拡大する時期の子育て支援を考える1 子育て支援の考え方 今日の動向と制度			(服部)
	13	家族が拡大する時期の子育て支援を考える2 臨床での取り組みの実際、産後ケアと子育て支援			(三田村)
	14	家族が拡大する時期の子育て支援を考える3 臨床での取り組みの実際、産後ケアと子育て支援			(三田村)
	15	まとめ 子育て支援の在り方を考察する			(服部)
テキスト ・参考書	岡野禎治他、『クlostトークから読み解く産後の周産期メンタルヘルス』、南山堂 立花良之、『母親のメンタルヘルス・サポートハンドブック』、医歯薬出版 根ヶ山光一編著、『母性と父性の人間科学』、コロナ社 その他、関連文献を適宜紹介する。				
予習・復習についての情報	随時説明する。				
授業の形式	講義				
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	レポート（100%）				
その他					

科目名	育成看護学特論Ⅲ (リプロダクティブヘルス・ケア)				
担当教員	服部律子				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	女性のリプロダクティブヘルスの維持増進を支える看護実践力を高めるため、不妊や性行動、性感染症などリプロダクティブヘルス上の健康問題と、それらの健康問題に介入するための理論について学び、さらにリプロダクティブライツを踏まえた妊娠、出産など性と生殖に関する健康を支える看護について考察する。				
授業の目標	1. 女性のリプロダクティブヘルス上の課題を理解し説明できる。 2. 統計などから女性のリプロダクティブヘルス上の課題を読み解くことができる。 3. リプロダクティブライツを踏まえた性と生殖に関する健康を支える看護について考察できる。				
育成する能力	女性のリプロダクティブヘルス・ケア上の課題や介入のための理論や看護について理解することで、女性のリプロダクティブヘルス・ケアのための専門的知識に関する教育力を修得する。				
授業計画	1	リプロダクティブヘルス概観 リプロダクティブヘルスの概念、歴史的変遷、近年の動向と課題	(服部)		
	2	リプロダクティブヘルスと健康行動 リプロダクティブヘルス維持向上のための健康行動、理論と研究の動向	(服部)		
	3	リプロダクティブヘルスと意思決定 リプロダクティブヘルスに関連する意思決定場面、意思決定の理論、意思決定支援	(服部)		
	4	リプロダクティブヘルスに関連する健康課題1 女性のやせと食習慣	(服部)		
	5	リプロダクティブヘルスに関連する健康課題2 子宮頸がんと健康行動	(服部)		
	6	リプロダクティブヘルスに関連する健康課題3 性行動と性感染症	(服部)		
	7	リプロダクティブヘルスに関連する健康課題4 不妊	(服部)		
	8	リプロダクティブヘルスに関連する健康課題5 性暴力被害と被害者支援	(服部)		
	9	リプロダクティブヘルスに関連する健康課題6 デートDV	(服部)		
	10	統計からリプロダクティブヘルス上の課題を読み解く。 母子に関する人口動態、保健、労働などの統計からリプロダクティブヘルス上の課題を探究する。	(服部)		
	11	保健統計からリプロダクティブヘルス上の課題を読み解く。 女性に関する人口動態、保健、労働などの統計からリプロダクティブヘルス上の課題を探究する。	(服部)		
	12	リプロダクティブヘルス支援1 健康教育(学級活動)とカウンセリング	(服部)		
	13	リプロダクティブヘルス支援2 ピア・サポートの基本(理論とスキル)、実践例	(服部)		
	14	リプロダクティブヘルス支援3 ピア・サポートのコーディネート	(服部)		
	15	まとめ	(服部)		
テキスト ・参考書	加納尚美編、『フォレンジック看護』、医歯薬出版 木原雅子、『10代の性行動と日本社会 そしてWYSH教育の視点』、ミネルヴァ書房 日本児童教育振興財団内日本性教育協会、『「若者の性」白書』、小学館 その他、関連文献を適宜紹介する。				
予習・復習についての情報	随時説明する。				
授業の形式	講義				
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	レポート(100%)				
その他					

科目名	育成看護学特論Ⅳ（家族支援）				
担当教員	服部律子、峰博子				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義 (一部演習)
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	育成期の幅広い看護実践力を育成することを目指し、システムとしての家族についての理解を深め、育成期の家族を支援するための看護について考察する。そのために、家族を理解するための基本となる理論や、Family centered careなど育成期の家族をケアするための理論と具体的な方法について学ぶ。				
授業の目標	1. 家族を理解するための理論を理解し説明できる。 2. 家族アセスメントについて理解し説明できる。 3. 家族支援の具体的方法について理解し説明できる。				
育成する能力	家族支援や家族ケアの具体的方法の理解による家族構成員全体へのケアを調整できるマネジメント力を修得する。				
授業計画	1	家族とは 家族観の背景、家族の機能と形態の変化、家族看護学とは	(服部)		
	2	家族の発達 家族周期論、発達する家族	(服部)		
	3	システムとしての家族 家族システム論、システムとしての家族、家族システムの構造	(服部)		
	4	家族アセスメント モデルの特徴、家族看護過程	(服部)		
	5	家族アセスメントのモデル1 カルガリー家族アセスメント・介入モデル	(服部)		
	6	家族アセスメントのモデル2 家族生活力量モデル	(服部)		
	7	家族アセスメントのモデル3 家族看護エンパワーメントモデル	(服部)		
	8	家族形成と地域社会 地域社会と家族、生活環境、地域の風土、社会資源	(服部)		
	9	家族支援の実践例1 病をもつ子ども家族への実践	(峰)		
	10	家族支援の実践例2 周産期にある家族への支援	(峰)		
	11	家族支援の実践例3 合併症妊産婦の家族支援	(峰)		
	12	家族看護と研究 家族看護における研究の特徴、課題、動向	(服部)		
	13	育成期の家族支援を考察する1 履修生の母子を取り巻く家族への取り組みの実際を家族看護の視点で考える	(服部)		
	14	育成期の家族支援を考察する2 履修生の母子を取り巻く家族への取り組みの実際を家族看護の視点で考える	(服部)		
	15	まとめ	(服部)		
テキスト ・参考書	山崎あけみ・原礼子編、『家族看護学』、南江堂				
予習・復習についての情報	随時説明する。				
授業の形式	講義。ただし、第13講、第14講は履修生の発表と全体討議によって進める。				
評価の方法（ 評価の配点比率と評価の要点）	レポート（100%）				
その他					

科目名	育成看護学特論演習				
担当教員	服部律子				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	2年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	演習
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	女性のリプロダクティブヘルス・ケアや子育て支援、子どもの健康障害への支援など育成看護学に関するテーマを選び、それらに対して国内外の論文をクリティークし、国際的な動向も踏まえながら、選択した各テーマに対する看護の方法をゼミ形式で探究する。				
授業の目標	1. 育成看護学に関する課題を見出すことができる。 2. 各課題に対して文献をクリティークし多角的に検討することができる。 3. 各課題に対する看護の方法を探究することができる。				
育成する能力	育成看護学分野における課題や課題に対する看護の方法を科学的に探求できる能力を育成する。				
授業計画	1	子どもの健康障害に関する看護方法の探究1 子どもの健康障害に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	2	子どもの健康障害に関する看護方法の探究2 子どもの健康障害に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	3	子どもの健康障害に関する看護方法の探究3 子どもの健康障害に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	4	子どもの健康障害に関する看護方法の探究4 子どもの健康障害に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	5	子どもの健康障害に関する看護方法の探究5 子どもの健康障害に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	6	子育て支援に関する看護方法の探究1 子育て支援に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	7	子育て支援に関する看護方法の探究2 子育て支援に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	8	子育て支援に関する看護方法の探究3 子育て支援に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	9	子育て支援に関する看護方法の探究4 子育て支援に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	10	子育て支援に関する看護方法の探究5 子育て支援に関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	11	女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する看護方法の探究1 女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	12	女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する看護方法の探究2 女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	13	女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する看護方法の探究3 女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	14	女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する看護方法の探究4 女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
	15	女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する看護方法の探究5 女性のリプロダクティブヘルス・ケアに関する論文を読み解き看護方法を探究する	(服部)		
テキスト ・参考書	それぞれのテーマに関連した研究論文等の文献を用いる。				
予習・復習についての情報	随時説明する。				
授業の形式	ゼミ形式で行う。				
評価の方法（ 評価の配点比率と評価の要点）	レポート（100%）				
その他					

科目名	精神看護学特論Ⅰ（歴史・法制度）				
担当教員	上野栄一、西出順子				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	卓越した看護実践者に必要な精神保健・医療・福祉・看護の制度と歴史について理解を深める。ケアを受ける立場の人から見た精神保健・医療・福祉・看護サービスの制度と歴史から、現状を理解し、人として尊重されて生きて暮らしていけることができる社会を展望する。				
授業の目標	1. 諸外国(英国、米国)の精神医療・人権擁護の歴史と制度と日本の現在の制度と歴史を理解する。 2. ケアを受ける人の立場から、日本の精神医療の現状を理解する。 3. リカバリー、ノーマライゼーションの現状と今後の展望を検討する。				
育成する能力	精神保健・医療・福祉・看護の制度と歴史について理解を深め卓越した看護実践者のための教育力を修得する。				
授業計画	1	日本の精神医療の歴史 我が国の精神医療の歴史を講義し、現在の精神医療の現状について討議する。 (上野)			
	2	日本の精神保健福祉法の変遷 日本の精神保健福祉法の変遷について講義し、課題を討議する。 (上野)			
	3	日本の精神看護の歴史と精神を病む人の人権 日本の精神看護の歴史を概観し、精神を病む人の人権をどのように理解していたのか、そして現在 はどのように人権擁護に努めているのかについて講義をし、体験事例を基に討議する。 (上野)			
	4	英国の精神保健法 英国の精神保健法について講義をし、地域精神医療と入院精神医療の実際を学習する。 (上野)			
	5	英国の精神医療の方向性 英国がどのように入院中心の精神医療から地域精神医療に変遷してきたのか、患者との共同創造と は何かを資料を基に討議する。 (上野)			
	6	米国の地域精神医療の変遷 米国の地域精神医療の実際を講義し、課題と利点について討議する。 (上野)			
	7	米国のMental Health Act の変遷地域精神医療の変遷 米国のMental Health Act が時代と共にどのように変化してきたのかを概観し、今後の米国の精神 保健制度とトラウマ・インフォームドケアについて討議する。 (上野)			
	8	グローバルヘルス 諸外国(イタリア、ベルギー、ロシア、タイ王国、など)の精神医療の歴史を概観し、今後の日本の 精神医療の在り方について検討する。ノーマライゼーションとは ノーマライゼーションの歴史、理念、意味を講義する。 (上野)			
	9	日本の精神医療のノーマライゼーションの実際 日本の精神医療でノーマライゼーションを実践している組織、活動について講義し、ノーマライゼ ーションの理念を具現化する具体的な方法を理解する。 (上野、西出)			
	10	諸外国のノーマライゼーションの実際 英国と米国(ハワイ州)の精神医療でノーマライゼーションを実践している組織、活動について講義 し、ノーマライゼーションの理念を具現化している具体的な方法を理解する。 (上野)			
	11	医療観察法 医療観察法制定の背景と運用の実際を講義する。 (上野)			
	12	諸外国の精神障害を有する犯罪者の治療と日本の医療観察法病棟の治療と看護 英国と米国(ハワイ州)で実践している看護について講義し、日本の現状と比較検討する。 (上野)			
	13	精神を病む人からみた精神保健福祉にかかわる社会資源の現状と課題 社会資源の現状について講義し、障害者総合支援法の活用と訪問看護をはじめとする社会資源の現 状を、精神を病む人の視点から見た課題と利点について体験事例をもとに討議する。 (西出)			
	14	精神を病む人とその家族のニーズを満たす地域精神医療サービスの制度の検討 我が国の現在の地域精神医療サービスで不足している点を講義し、今後必要な制度やサービスにつ いて討議する。 (西出)			
	15	これからの日本の精神医療の制度 精神を病む人とその家族のニーズを満たす日本の精神医療の制度を検討する卓越した精神看護実 践者の役割と機能について討議する。 (上野、西出)			

<p>テキスト ・参考書</p>	<p>木原正博（翻訳）：グローバルヘルス 世界の健康と対処戦略の最新動向、メディカルサイエンスインターナショナル、2017 新福尚隆他：改訂 世界の精神保健医療、現状理解と今後の展望、浅井邦彦、2009 Care Quality Commission(2016):Monitoring Mental Health Acts 2015/16, Mental Health Reform 福川摩耶、宇佐美しおり、野末聖香、他(2014):精神障害者への精神科ケア・マネジメントチーム及びチーム内における精神看護専門看護師(CNS)の役割と評価、熊本大学医学部保健学科紀要、10, 27-35 法務省、厚生労働省(2014):心身喪失等の状態で重大な他害行為を行ったものの医療及び観察などに関する法律の施行の状況についての検討結果。 http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200002gk0i-att/2r9852000002gk49.pdf 厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。 http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-122010000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/000051138.pdf C. A. Shea, L. R. Pelletier, E. C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby</p>
<p>予習・復習についての情報</p>	<p>(事前学習) 日本及び英国と米国の精神医療サービスに関する社会的現象と法整備に関する資料を精読する。特に、事件と法との関係について調べる。 (事後学習) 今回の学習が臨床の場ではどのように課題があるのかをまとめておく。精神看護専門看護師として倫理的課題に気づき、組織の中にどのように提言できるかをまとめる。</p>
<p>授業の形式</p>	<p>講義、ディスカッション</p>
<p>評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）</p>	<p>課題レポート(100%) 日本の精神医療・看護の実際をケアを受ける受け手の立場からみた利点と改善点を記述しているか(30%)、 卓越した精神看護実践者が担うべき役割と機能について言及しているか(30%)、 文献・資料を活用して深く洞察しているか(20%)、 論旨に一貫性があるか(10%)、 内容を十分理解しやすく記述しているか(10%)、の視点で評価する。</p>
<p>その他</p>	

科目名	精神看護学特論Ⅱ（精神・身体状態の評価）				
担当教員	上野栄一、西出順子、中川晶				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	卓越した看護実践者に必要な精神を病む人々の精神・身体状態の評価を学ぶことからケアを受ける立場の人の体験を理解する。様々な精神・身体状態を理解することで、複雑な心と身体の状態に苦しみ折り合いをつけている人々の社会生活支援のための評価方法を理解する。				
授業の目標	1. 精神を病む人の精神面・身体面の評価方法を理解する。 2. 精神を病む人が体験している生活上の困難さを理解する評価方法を学ぶ。 3. 精神を病む人の社会生活を支援する評価方法を学ぶ。				
育成する能力	精神・身体状態の評価について理解を深め卓越した看護実践者のための教育力を修得する。				
授業計画	1	精神を病む人の精神面・身体面を評価する意味 精神を病むということがその人との身体面、精神面、社会面、そしてスピリチュアルな面に影響することを理解する。そのために、必要な精神面と身体面をアセスメントする視点を討議する。 自我、自己、人格を評価する観察方法、心理テスト、行動特性を文献検討と体験事例を基に討議する。 (上野)			
	2	DSM-5とICD-10 活用の仕方と診断基準を学習する。 (上野)			
	3	DSM-5とICD-10 ケースピグネットを用いて様々な精神状態をDSM-5とICD-10を用いて診断に該当するあるいはしないと判断した根拠を討議する。 (上野)			
	4	統合失調症の診断 統合失調症のペーパー事例について報告し、DSM-5とICD-10を用いて診断基準と照合し、討議する。 (上野)			
	5	気分障害 ケースを用いて気分障害の診断について検討する。特に、双極Ⅱ型の見極めについて討議する。 (中川)			
	6	物質依存 事例を基に、DSM-5とICD-10を用いて診断基準と照合し、討議する。 (上野)			
	7	認知症 ケースを用いて、認知症の診断についてとスクリーニング検査法について討議する。 (上野)			
	8	全般性機能評価 GAFを用いて、訓練用のケースピグネットを評価し、誤差について討議する。 (上野)			
	9	心理機能評価 様々な心理テストの活用事例、限界を講義する。その尺度を用いた研究論文を検討する。 (西出)			
	10	身体機能評価 精神疾患を病む人が被りやすい身体機能(歯、視力、聴力、循環、代謝、栄養、排せつ、皮膚、足)の評価方法を理解する。 (西出)			
	11	発達段階評価・発達課題評価 エリクソンの漸進的発達理論に基づいて、暦年齢と心理発達の段階について模擬事例を用いて評価する。 (西出)			
	12	陰性・陽性症状評価 BPRS、PANSSを紹介し、評価方法を模擬事例を用いて修得する。 (上野)			
	13	日常生活能力・セルフケア 診断の手引きに基づいて、日常生活能力(ADL、IADL)の活用を理解する。特に長期入院精神病患者が長期入院生活を送っている間に獲得できなかった、あるいは活用しないために喪失した日常生活能力の評価を検討する。 (上野)			
	14	リカバリー評価・社会適応力評価・退院可能性評価 RAS、IMRについて紹介し、活用の仕方を検討し、臨床で、特に心理教育前後に評価する研究論文から、臨床での活用を討議する。 社会適応評価に関する国内外の文献を検討し、臨床への応用を討議する。 退院可能性評価表(川野ら)を紹介し、臨床での活用野可能性を討議する。 (上野)			
	15	卓越した精神看護実践者が行う様々な評価の臨床活用 学習した様々な評価を卓越した精神看護実践者が臨床での適応と、注意事項、更にスタッフ教育について討議する。 (上野、西出)			
テキスト ・参考書	稲田俊也：観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド、じほう、2014 山内俊雄：精神・心理機能評価ハンドブック、中山書店、2015 野末聖香、宇佐美しおり(2007)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会				

授業計画	11	精神療法的アプローチ 実践報告 スーパービジョン ② 実践した長期精神療法的アプローチを報告し、そこで使用している技法の有効性と限界、良い点と改善が必要な点、来談者にとって安心できる技法かどうか、についてスーパービジョンを受け、より効果的で来談者にベネフィットがある技法を修得する。 (上野、西出)
	12	精神療法的アプローチ 実践報告 スーパービジョン ③ 実践した長期精神療法的アプローチを報告し、そこで使用している技法の有効性と限界、良い点と改善が必要な点、来談者にとって安心できる技法かどうか、についてスーパービジョンを受け、より効果的で来談者にベネフィットがある技法を修得する。 (上野、西出)
	13	集団精神療法 プログラムの立案 仮定した集団(例えば、長期入院統合失調症患者、青年期で急性期の状態で入院した患者又はその家族、外来通院している精神障害者又はその家族、など)を対象に実施する集団療法の治療目標、技法を明確にする。 (上野、西出)
	14	集団精神療法 実施と評価 仮定した集団(例えば、長期入院統合失調症患者、青年期で急性期の状態で入院した患者又はその家族、外来通院している精神障害者又はその家族、など)を対象に明確にした集団療法の治療目標、技法をロールプレイングで身に付ける。 (上野、西出)
	15	卓越した精神看護実践者が行う様々な援助技法の臨床活用 卓越した精神看護実践者が実施する治療的なアプローチの技法を臨床で活用する際の課題を明確にする。 (上野、西出)
テキスト ・参考書	遊佐安一郎監修：家族面接・家族療法のエッセンシャルスキル、星和書店、2013 野坂祐子：トラウマインフォームドケア、日本評論社、2019 エリック・グランホルム、ジョン・マッケイド：認知行動SST 上巻：基礎・実践ガイド編 -統合失調症者支援のための臨床実践ガイド-、星和書店、2019 エリック・グランホルム、ジョン・マッケイド：認知行動SST 下巻：基礎・実践ガイド編 -統合失調症者支援のための臨床実践ガイド-、星和書店、2020 前田ケイ：基本から学ぶSST、星和書店、2008 野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒコカワ 狩野力八郎監訳G. O. Gabbard著(2012):精神力動的な精神療法:基本テキスト、岩崎学術出版社 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 日本家族研究・家族療法学会(2013):家族療法テキストブック、金剛出版 菊池安希子、佐藤美奈子訳、D. Turkingtonら著(2016):リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック 私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ、星和書店 武藤清栄訳、J. F. T. Bugental著(2007):サイコセラピストの芸術的腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴EBMからNBMへ、金剛出版 末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出版 C. A. Shea, L. R. Pelletier, E. C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press	
予習・復習についての情報	(事前学習) ①N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Pressを事前に抄読する。②精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。 (事後学習) 治療的なアプローチの技法を臨床で実践したら、有効性と限界について文献を活用してまとめておく。教育の機会があれば実施し、その時の課題と学習したことが役立つ内容をまとめておく。自分の臨床に必要な治療的なアプローチの技法を明確にしていく。	
授業の形式	講義、演習、ロールプレイング、プログラム作成と発表、VTR、リフレクション、スーパービジョン	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	課題レポート(100%) 自分の臨床に最も活用できる治療的なアプローチの技法を抽出し、その技法、目的、対象、方法、などを明確にする。実践可能な治療的なアプローチの技法か(40%)、患者と家族の視点から安心して受けられる治療的なアプローチの技法か(40%)、論旨が一貫しているか(20%)という視点で評価する。	
その他		

科目名	精神看護学演習Ⅱ（精神看護理論、援助技法）				
担当教員	上野栄一、西出順子				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	演習
単位区分	選択	単位数	2単位		
授業の概要	精神看護理論に支えられた卓越した精神看護実践者に必要な精神を病む人とその家族への様々な援助技法を身につける。精神を病む人の物の見方から、安全で、安心して治療・看護を受け、社会に適応的に、そして自立して生活するための支援として、高度な精神看護実践者に必要な援助技法を修得する。				
授業の目標	1. 精神看護理論に基づく精神を病む人が安全で安心して回復に向かえるための高度な援助技法を修得する。 2. 患者と家族が信頼して受けられる高度な援助技法を修得する。 3. 精神看護専門看護師としての実践への活用可能性を探る。				
育成する能力	精神看護学の実践を支える精神看護理論と援助技法について理解を深め卓越した看護実践者のための実践力と教育力を修得する。				
授業計画	1	対人関係論に基づく援助技法 対人関係論の発展段階に応じた援助技法の実際についてロールプレイングを用いて修得する。 (上野、西出)			
	2	ヒューマンケアリングと援助技法 ジーン・ワトソンのヒューマンケアリングの理論に基づく援助技法の実際を、演習を通して身につける。 (上野)			
	3	ヒューマンスティックナーシングの理論と援助技法 ヒューマンスティックナーシングの実存主義の理論に基づく援助技法の実際を、演習を通して身につける。 (上野)			
	4	精神を病む人が安心して薬物療法を受けられるための支援 服薬教室、服薬支援 文献や資料を活用し、体験事例を含めて討議をし、個人及び又は集団の服薬指導教室あるいは服薬支援プログラムを立案する。 (上野)			
	5	精神を病む人が安心して薬物療法を受けられるための支援 服薬教室、服薬支援 ロールプレイング 立案したプログラムを実施し、実行した技法とそのプログラムの内容に関して、学生、教員と共に良い点と改善することが必要な点を討議して、より良いプログラムを立案し改善すべき技法を明確にする。プレゼンテーションと討議。 (上野)			
	6	トラウマ・インフォームドケアの臨床への展開① 臨床で実施可能なトラウマ・インフォームドケアを立案する。 患者との共同の可能性を討議する。 (上野、西出)			
	7	トラウマ・インフォームドケアの臨床への展開② 立案したトラウマ・インフォームドケアの内容の実現するために必要な方策を検討する。組織に働きかけるとしたら、どこの誰に、どのように働きかけるか、患者や家族に働きかけるとしたら、どのように説明し、参加してもらうかを討議する。 (上野、西出)			
	8	日常生活技能訓練(SST) プログラムの立案 仮定した(例えば、長期入院統合失調症患者、急性期の青年期の患者、地域で暮らす慢性期精神障害者、など)対象に提供するSSTの方法、技法、環境、ルール、リーダーシップ、コ・リーダーの役割を考えたプログラムを作成する。 (上野、西出)			
	9	日常生活技能訓練(SST) 実施と評価 作成したプログラムでロールプレイングを、役割を変えて実施し、実行した技法とそのプログラムの内容に関して、学生、教員と共に良い点と改善することが必要な点を討議して、より良いプログラムを立案し、改善すべき技法を明確にする。 (上野、西出)			
	10	患者への心理教育 プログラムの立案 仮定した対象(例えば、長期入院統合失調症患者、急性期の青年期の患者、地域で暮らす慢性期精神障害者、など)に提供する心理教育のプログラムを立案する。 (上野)			
	11	患者への心理教育 実施と評価 作成したプログラムでロールプレイングを実施し、実行した技法とそのプログラムの内容に関して、学生、教員と共に良い点と改善することが必要な点を討議して、より良いプログラムを立案し、改善すべき技法を明確にする。 (上野)			

授業計画	12	精神を病む患者の家族への心理教育 プログラムの立案 仮定した家族(例えば、急性期の統合失調症の家族、長期入院の精神障害者の家族、初発の青年期の患者の家族、患者が家庭で暴力行為があるために退院をためらう家族、など)を対象に、心理教育の方法、技法、環境、ルール、リーダーシップ、コ・リーダーの役割を考えたプログラムを作成する。 (上野)
	13	家族への心理教育 実施と評価 作成したプログラムでロールプレイングを実施し、実行した技法とそのプログラムの内容に関して、学生、教員と共に良い点と改善することが必要な点を討議して、より良いプログラムを立案し、改善すべき技法を明確にする。 (上野)
	14	精神科訪問看護 患者と家族が安心して受けられる、精神科に必要な訪問看護の援助技法を整理し、訪問前から訪問時、訪問後の援助技法を具体的に計画する。 (上野、ゲストスピーカー)
	15	卓越した精神看護実践者が行う様々な治療的なアプローチの技法の臨床活用 卓越した精神看護実践者が実施する治療的なアプローチの技法を臨床で活用する際の課題を明確にする。 (上野、西出)
テキスト ・参考書	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ 西園昌久総監修、池淵恵美監訳(R. P. Loberman著)(2008):リバーマンのリハビリテーション・マニュアル、星和書店 C. A. Shea, L. R. Pelletier, E. C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby 稲田八重子監訳(H. Pepulau著)(1973):人間関係の看護論—精神力学的看護の概念枠、医学書院 長谷川浩、川野雅資訳(L. Zuderard,)(1983):ヒューマンスティックナーシング、医学書院 川野雅資、長谷川浩訳(J. Watson著)(2003):ワトソン21世紀の看護論—ポストモダン看護とポストモダンを越えて—、医学書院 大島巖、加藤大慈(2015):IMR 入門、IMR	
予習・復習についての情報	(事前学習) ①精神看護学特論IVの内容を復習しておくことと ②臨床で実践した援助技法の何が有効で何が課題だったかをレポート1枚程度にまとめておく。 (事後学習) 修得した援助技法を臨床に応用したら、文献を活用して課題と利点をまとめておく。スタッフに教育をする機会があれば、その時の教育の技術をまとめる。	
授業の形式	演習、討議、プログラムの発表、リフレクション、ロールプレイング、スーパービジョン	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	課題レポート(100%) 自分の臨床に最も活用できる援助技法を抽出し、その技法、方法、ルール、リーダーシップ、などを明確にする。実践可能な内容か(30%)、精神看護の理論と整合性があるか(30%)、患者と家族の視点から安心して受けられるプログラムか(30%)、分かりやすいプログラムの記述か(10%)という視点で評価する。	
その他		

科目名	精神看護学実習 アセスメント				
担当教員	上野栄一、西出順子				
クラス	—	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	実習
単位区分	選択（CNSを履修するコース）	単位数	2単位		
授業の概要	精神を病む人とその家族の精神状態、身体状態、社会生活能力、退院可能性、ソーシャルサポートなどのアセスメントを行い、それらアセスメントを統合し、精神看護専門看護師として看護計画を立案し、支援の実践能力を修得する。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神を病む人を精神機能、身体状態、社会生活力、退院可能性、ソーシャルサポートなどの視点から総合的にアセスメントできる。 2. 総合的なアセスメントから、患者の課題を特定し、持っている力と合わせて患者の長期目標、短期目標を設定し、看護計画を患者と共に計画し、実践できる。 3. ケースカンファレンスや家族との面談より、精神を病む人とその家族の現在の状態を総合的にアセスメントし、他職種専門家（精神科医・臨床心理士・作業療法士・社会福祉士・薬剤師など）と共に支援計画を立案し、実践できる。 				
育成する能力	精神を病む人とその家族の包括的なアセスメントを実践して卓越した看護実践者のための実践力と教育力を高める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習病院 ハートランドしぎさん、大阪精神医療センター 2 実習期間 7月25日から9月15日までの間の2週間 3 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> ①複雑な問題を抱えた精神を病む人を1名ないし2名受け持ち、精神状態、身体状態、社会生活力、退院可能性、ソーシャルサポートなどの視点から総合的にアセスメントを行う。 ②総合的なアセスメントから、患者の課題を特定し、持っている力と合わせて患者の長期目標、短期目標を設定し、看護計画を患者と共に計画し、実践する。 ③他職種専門家からの情報やケースカンファレンスなどを通じて、精神症状やフィジカルアセスメントを行う。 ④ケースカンファレンスや家族との面談などを通じて、家族の疾患に対する理解や家族機能などをアセスメントし、家族をエンパワーメントする看護計画を他職種専門家と共に立案し、実践する。 ⑤1週目で受け持ち患者・家族のアセスメントを実施し、看護計画を立案する。その後、計画を実践し、評価、再アセスメントを行う。 4 カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> ①実習病院の精神看護専門看護師と担当教員から定期的なスーパーバイズを受ける。 ②アセスメントの方法、適切な尺度の使用、アセスメント結果の判断のスーパーバイズを受ける。 ③看護計画の立案、実践、評価についてスーパーバイズを受ける。 				
テキスト ・参考書	融道男編、World Health Organization(2005):ICD-10精神および行動の障害、医学書院 日本神経学会監修、American Psychiatric Association原著(2014):DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き、医学書院 福田俊也(2014):観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド 改訂第3版、じほう 沼初枝(2013):臨床心理アセスメントの基礎、ナカニシヤ出版 日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院 「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016年版]、臨床精神科学第44巻増刊号				
予習・復習についての情報	(事前学習)精神看護学特論Ⅱの内容を復習しておく。臨床で用いているアセスメントを整理する。 (事後学習)学習した内容を臨床に応用できる可能性を探索する。				
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的なスーパーバイズを受ける。				
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	スーパーバイズをする精神看護専門看護師の意見も参考にして実践場面と実習レポートで評価（100%）				
その他					

※R3.10 大阪精神医療センター追加

科目名	精神看護専門看護師役割実習				
担当教員	上野栄一、西出順子				
クラス	—	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	実習
単位区分	選択（CNSを履修するコース）	単位数	2単位		
授業の概要	精神看護専門看護師として、精神を病む人とその家族・介護者への支援を行うに当たり、組織、看護管理者が期待する役割の理解を深める。精神看護専門看護師が活用している技法とその技法を用いる根拠を理解し、役割に応じて使い分ける高度な臨床判断を学ぶ。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の中で精神看護専門看護師が果たす直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究の6つの役割と機能の概要を理解する。 2. 精神看護専門看護師の高度な臨床判断と技法を学び、実際に看護実践を行い、自己の課題を明確にできる。 3. 医療チーム内で他職種と連携ができ、相談・調整・教育などの役割を実施することができる。 4. 倫理的問題に関して、倫理調整ができる。 				
育成する能力	精神看護専門看護師が担う6つの役割について理解を深め卓越した看護実践者のための実践力と教育力を修得する。				
授業計画	1	実習病院 ハートランドしぎさん、有馬高原病院、東京女子医科大学八千代医療センター、			
	2	大阪医科薬科大学病院			
	3	実習期間 1月末から3月末までの間の2週間			
		実習内容			
		①事前に教員及び精神看護専門看護師の指導を受けて実習計画を立案する。			
		②施設のオリエンテーションを受け、実習病棟の患者の生活支援とケア実践活動についての概要を知る。			
		③精神看護専門看護師の指導のもと、精神看護専門看護師の機能と役割（直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）について、事例検討会や症例カンファレンスなどへの見学、参画などを通じて学習する。また、他職種との連携について、理解を深める。			
	4	④精神看護専門看護師の臨床判断と技法を担当教員と精神看護専門看護師のスーパーバイズを受けて意味づける。			
		カンファレンス・スーパーバイズ			
		①適宜、精神看護専門看護師、指導教員からスーパーバイズを受ける。			
		②1・2週目終了時にカンファレンスを開き、助言を受けながら、実習を進める。			
テキスト ・参考書	<p>野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会</p> <p>南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ</p> <p>宇佐美しおり、田中美恵子、永井優子他(2014):精神科看護実線における倫理的課題と対処方法の実態、日本精神保健看護学会誌、23(1)、112-131</p> <p>野末聖香著編集(2004):リエゾン精神看護:患者ケアとナースの支援のために、医歯薬出版株式会社</p> <p>安田妙子、山内典子、山田咲樹子、他(2012):大学病院における専門領域の異なる CNS の協働に関する研究、木村看護教育振興財団看護研究集録、19、69-80</p> <p>平井元子(2014):リエゾン:身体とところをつなぐかわり、仲林書林</p>				
予習・復習についての情報	(事前学習)精神看護専門看護師の役割と機能、そして活動に関する文献を調べる。精神看護専門看護師に直接活動内容を聴ける機会を積極的に作る。 (事後学習)学習した6つの役割を臨床の場で実践し、その体験をまとめる。				
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的なスーパーバイズを受ける。				
評価の方法（評価の配点比率と評価の要点）	スーパーバイズをする精神看護専門看護師の意見も参考にして実践場面と実習レポートで評価(100%)				
その他					

※H31.1 東京女子医科大学八千代医療センター追加

※R3.12 大阪医科薬科大学病院追加

科目名	直接ケア実習				
担当教員	上野栄一、西出順子、川野雅資				
クラス	—	開講学期	後期から前期	対象学年	1年～2年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	実習
単位区分	選択（CNSを履修するコース）	単位数	4単位		
授業の概要	精神を病む人及び/又はその家族を総合的にアセスメントし、その結果対象に必要な治療方法を選択し、実施し、評価することを学ぶ。				
授業の目標	1. 精神を病む人の精神状態、身体機能、社会面を総合的にアセスメントして、精神を病む人が必要としているセラピーを実施し、その効果を評価する。 2. 精神を病む人の家族が必要としているセラピーを実施し、その効果を評価する。				
育成する能力	精神を病む人とその家族への治療技法を実践して卓越した看護実践者のための実践力と教育力を高める。				
授業計画	1	実習病院 ハートランドしぎさん、有馬高原病院、やまと精神医療センター、さわ病院、浅香山病院、小阪病院			
	2	実習期間 3月1日から9月15日までの間の4週間（180時間）			
	3	対象患者又は家族 複数名(セラピーに応じて適切な対象者数を決める。)			
	4	学習内容 ①精神を病む人の精神状態、身体機能、社会面を総合的にアセスメントする。 ②対象の必要性に応じて精神療法、集団精神療法、家族療法などから効果的と判断できる治療技法を選ぶ。 ③選択したセラピーについて患者及び/又は家族に分かりやすく説明して同意を得る。 ④実施したセラピーの効果を評価する。			
	5	実習方法 ①実習前に担当教員と精神看護学演習Ⅰ・Ⅱのセラピーの学習修得を確認する。 ②実習前に担当教員から実施するセラピーのスーパーバイズを受ける。 ③セラピーを実施する前に精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。 ④対象のアセスメントの結果を精神看護専門看護師と教員からスーパーバイズを受ける。 ⑤対象が必要としているセラピーを精神看護専門看護師と教員からスーパーバイズを受けて選択する。 ⑥選択したセラピーについて患者及び/又は家族の同意を得る。 ⑦精神看護専門看護師と共同してセラピーを実施する。 ⑧評価尺度及び実施記録を用いて治療の効果を判断する。 ⑨セラピーを実施する際には、適時、担当教員と精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。			
テキスト・参考書	西園昌久総監修、池淵恵美監訳(R. P. Loberman 著)(2008):リバーマンのリハビリテーション・マニュアル、星和書店 狩野力八郎監訳(Glen O. Gabbard 著)(2012):精神力動的な精神療法:基本テキスト、岩崎学術出版社 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 宇佐美しおり、中山洋子、野末聖香、他(2014):再入院予防を目的とした精神障害者への看護ケアの実態、日本精神保健看護学会誌、23(1)、70-80 武藤清栄訳、J. F. T. Bugental 著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴 EBM から NBM へ、金剛出版 末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出版 N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press				
予習・復習についての情報	(事前学習)精神看護学演習Ⅰ・Ⅱの技術を復習する。精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。これまでに実施したセラピーの体験を整理する。 (事後学習)学習した治療技法の臨床への応用を探索する。				
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的なスーパーバイズを受ける。				
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	スーパーバイズをする精神看護専門看護師の意見も参考にして実践場面と実習レポートで評価(100%)				
その他					

※R元.7 やまと精神医療センター追加 ※R2.7 さわ病院追加 ※R4.5 浅香山病院追加 ※R4.8 小阪病院追加
※R4.8 CNS実習スーパーバイザーとして川野雅資先生担当

科目名	上級直接ケア実習				
担当教員	上野栄一、西出順子、川野雅資				
クラス	—	開講学期	通期	対象学年	2年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	実習
単位区分	選択（CNSを履修するコース）	単位数	2単位		
授業の概要	サブスペシャリティに応じて、複雑で解決困難な精神の課題を抱えている対象とその家族・介護者に対して、看護を展開するのに必要な精神看護専門看護師の臨床判断と治療技法を修得する。				
授業の目標	選択したサブスペシャリティに応じて、患者とその家族・介護者に必要な支援を看護師、他職種専門家、地域の資源のスタッフと協働してアセスメントし、介入し、評価する。				
育成する能力	選択したサブスペシャリティの対象者とその家族の複雑で解決困難な課題に対する看護を実践して卓越した看護実践者のための実践力と教育力を高める。				
授業計画	1	実習病院 急性期精神看護をサブスペシャリティに選択した学生は、ハートランドしぎさん又は有馬高原病院の急性期病棟、都立松沢病院又はスーパー救急病棟、さわ病院、浅香山病院、小阪病院。 地域移行支援精神看護学をサブスペシャリティに選択した学生は、有馬高原病院の地域移行支援機能強化病棟。			
	2	実習期間 4月から9月15日までの間に連続して2週間実習する。			
	3	対象患者			
	4	複雑で解決困難な事例を2事例受け持つ。			
	5	実習内容 患者とその家族・介護者が精神を病むことによって求めている支援を、対象者を含めてアセスメントする。ケア計画を立案し、精神看護専門看護師が行う介入を実行し、対象者と共に評価する。 実習方法 ①担当教員のスーパーバイズを受けて実習計画を立案する。 ②実習病院の精神看護専門看護師の指導を受けて実施する。 ③適時、担当教員と精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。			
テキスト・参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ 融道男編、World Health Organization(2005):ICD-10 精神および行動の障害、医学書院 日本神経学会監修、American Psychiatric Association 原著(2014):DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き、医学書院 厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。 http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-122010000-Shakaiengokuyokushougai/000051138.pdf 野田寿恵、杉山直也、三宅美智他(2013):行動制限の国際比較 日本フィンランド精神科急性期医療における隔離・身体的拘束研究から、精神科治療学、28(10) 1265-1271 狩野力八郎監訳(Glen O. Gabbard 著)(2012):精神力動的療法:基本テキスト、岩崎学術出版社 「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016年版]、臨床精神科学第44巻増刊号 武藤清栄訳、J.F.T. Bugental 著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴 EBM から NBM へ、金剛出版				
予習・復習についての情報	(事前学習)精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。サブスペシャリティに応じて地域移行支援精神看護学特論又は急性期精神看護学特論の内容を復習しておく。 (事後学習)臨床の場で学習した知識と技術を応用する。その体験をまとめておく。				
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的なスーパーバイズを受ける。				
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	スーパーバイズをする精神看護専門看護師の意見も参考にして実践場面と実習レポートで評価(100%)				
その他					

※R4.5 浅香山病院追加 ※R4.8 小阪病院追加

※R4.8 CNS実習スーパーバイザーとして川野雅資先生担当

科目名	特別研究				
担当教員	上野栄一、辻下守弘、服部律子、吉村雅世、堀内美由紀、西菌貞子、西川隆、柴田政彦、伊藤健一、松浦純平、小林由里				
クラス	—	開講学期	通期	対象学年	1～2年
曜日・時限	—	講義室	(指導教員に確認)	授業形態	演習
単位区分	選択必修	単位数	8単位		
概要	「精神看護学分野」「在宅看護学分野」「育成看護学分野」の3分野にかかわり、学生が作成した研究計画を基に具体的な研究へと導き、論文を完成させるための指導を行う。				
授業の目標	1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上をはかるために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行える。 3. 研究を推進するにあたり確かな倫理観に裏付けられた研究的態度を身に付けることができる。				
育成する能力	研究の遂行に伴う研究協力者はじめ研究フィールドにおける関係する職種とのマネジメント力を修得する。				
授業計画 及び テーマ	<p>1回～30回</p> <ol style="list-style-type: none"> 在宅医療看護分野、育成看護学分野、精神看護学分野を取り巻く状況について関連文献をまとめプレゼンテーションを行い、研究的に取り組むべき課題を抽出する。 課題に関連した国内外の研究論文をクリティークする。 課題に関する研究状況を明らかにし、研究的に取り組むべき課題を精選する。 <p>31回～60回</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題に関する研究計画書の作成 研究倫理委員会の審査申請書の作成 <p>61回～90回</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究対象者、施設などとの調整 データ収集・整理、分析 <p>91回～120回</p> <p>論文作成</p> <p>(上野栄一) R3.4.1～ 精神しょうがいをもつ対象への援助について、多角的な視座で分析する方法を学び、精神しょうがい者をもつ課題をみつけ修士論文を作成のための指導を行う。</p> <p>(辻下守弘) 高齢者の運動習慣形成のための行動変容と高齢者の介護者を対象とした介護技術指導を目的とした行動分析的アプローチとその効果に関して研究計画から研究の実施、そして論文作成までを指導する。</p> <p>(服部律子) 子育て準備期から周産期、子育て期までの人々や母子に対する看護など次世代育成への支援に関する分野において、自ら課題を発見し、研究テーマを設定して研究に取り組み修士論文にまとめるまでのプロセスを指導する。</p> <p>(吉村雅世) 高齢者ケア及び高齢者の看護のナラティブ・アプローチを取り上げ、対象理解や支援方法などの研究、科学的な研究方法の習得、論文作成の指導を行う。</p> <p>(堀内美由紀) R3.4.1～ グローバル化、ダイバーシティなどをキーワードとして、長期に日本で生活してきた在日外国人の高齢化の課題、介護支援や在宅看護に関する国際比較、途上国における介護に対する家族の認識、等の研究テーマを取り扱う。海外における調査に関する研究倫理や手順についても指導する。</p> <p>(西菌貞子) R3.4.1～ 看護師には専門分野に関わらず、変化・多様性・複雑さへの対応が求められています。様々な分野の種々の課題への対応力、看護師の能力育成、臨床における継続教育の視点から検討を行います。</p>				

<p>授業計画 及び テーマ</p>	<p>(柴田政彦) R2.4.1～ 慢性疼痛患者のアセスメント、有効な看護支援等に関して研究計画の立案、研究計画書の作成、研究遂行、研究報告書の作成までの研究指導を行う。</p> <p>(伊藤健一) R元.7.1～ 急増する慢性呼吸器疾患や、虚血性心疾患を有する人々の回復支援としての運動療法と生活支援に関連する分野において研究テーマを設定し、一連の研究プロセスと研究発表の方法、ならびに論文作成を指導する。</p> <p>(松浦純平) 成人看護学領域急性期（クリティカル）分野において、特に術後せん妄に関する研究課題を中心に、量的研究と質的研究のミックスメソッドであるテキストマイニング法を用いて修士論文を完成するための研究指導を行う。</p> <p>(小林由里) R2.4.1～(科目：元.9～) 新人看護師を含む看護師のクリティカルシンキング能力、看護実践能力に関するテーマについて、研究課題の明確化や研究方法の検討など研究をまとめるにあたり必要な指導を行う。</p> <p>(守本とも子) R4.4～兼任 在宅療養者とその家族の QOL 向上と自立をめざした看護実践について、最近の研究成果を文献レビューする。そして、今後の在宅療養者とその家族への看護実践の在り方と課題解決のための方策を探究するための研究指導を行う。</p>
<p>テキスト ・参考書</p>	<p>特に指定しない。</p>
<p>予習・復習に ついての情報</p>	<p>看護関連の課題について問題意識を持って学ぶ姿勢をもつ。</p>
<p>授業の形式</p>	<p>個別指導と学生と教員へのプレゼンテーション</p>
<p>評価の方法（ 評価の配点比 率と評価の要 点）</p>	<p>文献レビュー（20%）研究方法の妥当性（20%）論文の完成度（60%）</p>
<p>その他</p>	

※2020.4.1 現在

科目名	課題研究				
担当教員	上野栄一、西出順子、川野雅資				
クラス	—	開講学期	通期	対象学年	2年
曜日・時限	—	講義室	—	授業形態	演習
単位区分	選択必修 (CNS必修)	単位数	4単位		
授業の概要	精神看護学実習で取得した精神看護専門看護師の技法について、理論的、広範囲な文献からクリティークし、実践を概念化し新たな技法も開発、有効性の検証又は理論開発を行い、課題研究の論文を完成するための研究指導を行う。				
授業の目標	1. 学習内容の中から、精神看護専門看護師の実践の中で生じる課題を抽出する。 2. 研究テーマにふさわしい知見を得て、修士課程修了に相当する課題研究論文をとってまとめる。				
育成する能力	研究の遂行に伴う研究協力者はじめ研究フィールドにおける関係する職種とのマネジメント力を修得し、研究への取り組みを通して臨床での看護実践に必要な課題探究力に関する教育力を修得する。				
授業計画 及び テーマ	<p>1回～15回 テーマの抽出 精神看護学実習の実践で体験した患者及び家族の状態に応じた看護支援方法及び高度な看護技術、看護師の自己理解に基づく実践場面で気づいた看護援助を行う際の内発的な力、患者及び家族と看護師との関係性に影響する要因、などに関して高度な看護技術と知識を備えた精神看護師に必要な現象、技法、などに関してこれまでの実習記録とスーパービジョンの記録を振り返り、課題研究にふさわしいテーマを抽出する。学生同士でのプレゼンテーションを行い、テーマの生成に示唆をえる。</p> <p>16回～20回 文献検討 テーマに関連する、国内外の文献を検索し、テーマとの類似と相違を明確にする文献検討を行う。</p> <p>21回～30回 課題に関する研究計画書の作成、提出。研究倫理委員会への審査申請書の作成。</p> <p>31回～40回 テーマに関する実践場面の抽出を文献と照らし合わせて考えを深める。</p> <p>41回～60回 論文作成 課題研究論文を論文の形式に従って記述する。</p> <p>研究テーマの抽出 実践の中で生じる課題を抽出する。 文献検討 テーマに関連する文献を看護学、精神医学、心理学、社会福祉学、薬学などから探索する。必要があれば海外の文献を探索する。 討 議 担当教員、学生同士で討議してテーマを深める。 倫理委員会 研究計画を倫理委員会に提出して承認を得る。 助 言 修士論文としての質を高めるために、担当教員、精神看護専門看護師、学生と定期的に討議する。 研究指導 担当教員から定期的に指導を受ける。積極的に時間の設定をする。</p> <p>(上野栄一) R3.4.1～ 臨床場面における課題を抽出し、患者の反応をどのようにみてどのように援助するのか、また定性的・定量的に評価する方法を修得し論文作成のための指導をする。</p> <p>(西出順子) 看護の臨床のカウンセリング手法や技術に関する研究課題を設定して、論文を作成するための指導を行う。</p> <p>(川野雅資) R4.8～兼任 急性期精神障害者とその家族又は地域移行支援機能強化病棟に入院中の長期入院精神障害者とその家族に対して、複数回実施した自らのケア技術を、文献的裏付けを討議して臨床適応可能について論文としてまとめる。プラクティスをエビデンスにする。</p>				
テキスト ・参考書	特に指定しない。				
予習・復習 についての情報	これまでの実習記録を振り返る。自分の課題を強化する文献を自ら調べる。				
授業の形式	個別指導と学生と教員へのプレゼンテーション				
評価の方法（ 評価の配点比 率と評価の要 点）	課題研究論文（リサーチペーパー）を持って修士論文の評価基準と手順に従って評価（100%）				
その他					

※R4.8～川野雅資先生を追加